

## 1. 認知症とは

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったためにさまざまな障害が起こり、生活する上で支障（およそ6カ月以上継続）が出ている状態を指します。認知症を引き起こす病気のうち、最も多いのは、アルツハイマー病、前頭・側頭型認知症、レビー小体病など脳の神経細胞がゆっくりと死んでいく「変性疾患」と呼ばれる病気で、続いて多いのが、脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などにより、神経の細胞に栄養や酸素が行き渡らなくなり、その結果その部分の神経細胞が死んだり、神経のネットワークが壊れてしまう「脳血管性認知症」です。（参照①）

（☆参照①政府広報オンライン「もし、家族や自分が認知症になったら 知っておきたい認知症のキホン」  
：<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201308/1.html>）

## 2. 認知症にかかる施策

認知症の人の将来推計は、2012（平成24）年における認知症有病者数462万人を起点にすると、2025（平成37）年には約700万人という推計がでています。これは、2012（平成24）年で65歳以上高齢者の7人に1人であったのが、2025（平成37）年には5人に1人に達すると見込まれる数字です。

このような背景から、2015（平成27）年1月に厚生労働省を始めとした関係12府省庁（内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省及び国土交通省）と共同し「認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～（新オレンジプラン）」（以下、「新オレンジプラン」という）を策定しました。（参照②）

（☆参照②「新オレンジプラン」：[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/nop\\_1/](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/nop_1/)）

新オレンジプランは、認知症高齢者等にやさしい地域づくりを推進していくため、認知症の人が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるために必要としていることに的確に答えていくことを旨としつつ、7つの柱（図①）に沿って認知症の人とその家族まで支援する取り組みとなっています。

（図①：【新オレンジプランの7つの柱】）



### 3. 認知症サポーターについて

新オレンジプランで策定した取り組みのうち、「認知症サポーター」の養成があります。認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の人の尊厳を損なうことなく、適切な対応をすることで、認知症の人や家族を暖かく見守り、支援する応援者です。

例えば、認知症の人やその家族、地域住民、専門職等、誰もが集い、地域で支える「認知症カフェ」(図②)では、認知症サポーターが活躍している例もあります。

全国の地域や職域において「認知症サポーター養成講座」(図③)が開催され、認知症サポーターの養成(表①)が取り込まれていますので、積極的な受講をお願いいたします。

平成29年度予算概算要求では、認知症サポーターの先進的な取り組み事例を全国に周知していくとともに、認知症サポーター養成講座修了者の復習の機会や、より上級な講座の開設など、さらなる活躍を促進する取り組みへの支援を行うこととしています。

#### (図②：【認知症カフェ】)

##### 【認知症カフェの様子】



- 月に1～2回(2時間程度)程度の頻度で開催
- 通所介護施設や公民館の空き時間を活用
- 効果
  - ・ 認知症の人 → 自ら活動し、楽しめる場所
  - ・ 家族 → わかり合える人と出会う場所
  - ・ 専門職 → 人としてふれあえる場所(認知症の人の体調の把握が可能)
  - ・ 地域住民 → つながりの再構築の場所(住民同士としての交流の場や、認知症に対する理解を深める場)

☆参考：<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000079015.pdf>

「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～  
参考資料集 13 ページ参照

#### (図③：【認知症サポーター養成講座】)

##### 【認知症サポーター養成講座】

##### ○講座の内容

- ・ 認知症の基礎知識 60分
- ・ 認知症の人への対応、家族の支援、サポーターとしてできること 30分

○講座の受講は「無料」です。受講するには、市町村等が住民を対象として開催する講座に参加する方法や、友人や職場の仲間、団体毎に研修会等として開催する方法がありますので、詳しくはお住まいの市町村へおたずねください。

受講者には「オレンジリング」  
が配布されます。(画像→)



(表①：【中国5県の認知症サポーター養成人数・講座開催状況（中国5県／全国）】)

平成28年9月30日現在

中国5県	65歳以上（高齢者）人口（A）	サポーター人数（B）	サポーター講座開催回数（C）	サポーター1人当たりの高齢者数（A／B）	高齢者1,000人当たりの講座開催回数（C／〔A／1,000〕）
鳥取県	169,509	73,076	2,573	2.32	15.18
島根県	224,630	60,238	2,068	3.73	9.21
岡山県	546,315	125,346	4,402	4.36	8.06
広島県	780,677	180,137	5,110	4.33	6.55
山口県	452,118	95,333	2,917	4.74	6.45
全国	33,621,722	7,452,654	226,576	4.51	6.74

出典：全国キャラバン・メイト連絡協議会「認知症サポーターの養成状況」

#### 4. 中国四国厚生局における取組

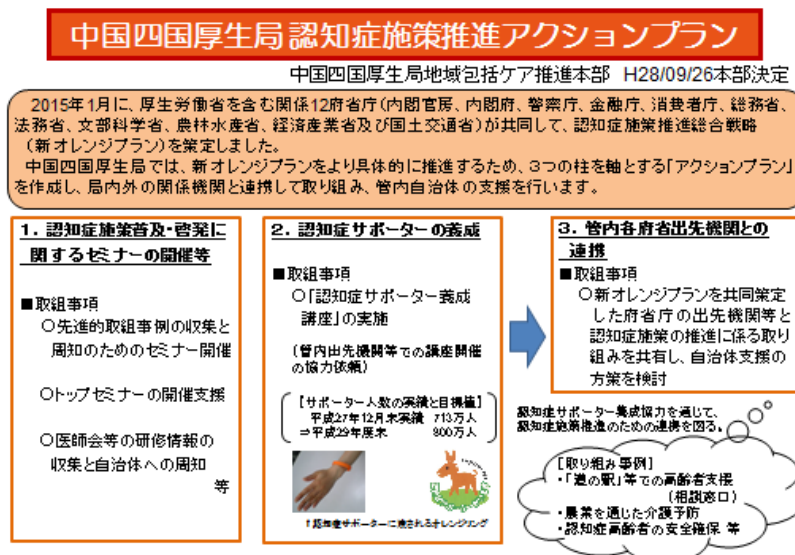
地域包括ケア推進課では、「認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）」の普及・啓発及び各種事業の把握、助言、支援」に取り組んでいます。

これまで、中国管内各県への訪問や、中国四国厚生局・四国厚生支局管内の各県認知症施策担当者を対象にした、「認知症施策に関するブロック会議」の開催等、各県における認知症施策の推進状況や課題について、意見交換を行う等、各県への支援を実施しています。

また、中国四国厚生局では、新オレンジプランによる取り組みをより具体的に推進するため、「1. 認知症施策普及・啓発に関するセミナーの開催等」、「2. 認知症サポーター養成」、「3. 管内各府省出先機関との連携」の3つの柱を軸とする「中国四国厚生局認知症施策推進アクションプラン」（図⑤）を策定し、厚生局内外の関係機関と連携して取り組み、管内自治体への支援となるよう努めています。

今後とも、局内関係者を始め、管内各県・市町村及び各関係機関と連携して取り組んでいくこととしています。

(図⑤：【中国四国厚生局認知症施策推進アクションプラン】)



## 5. 終わりに

認知症の人にやさしい地域づくりを推進していくためには、認知症の人を地域で見守る体制づくりが重要となってきます。認知症の人とその家族に対して、地域の中で誰もが気を付ける、気付く、そういった日常になるよう、自分なりにできる簡単なことから始めませんか。その一歩として「認知症サポーター」の一人となり、新オレンジプランの目指す社会の実現に貢献いただけるようお願いいたします。

### 11月11日は「介護の日」

介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及びその家族等を支援するとともに、これらの人たちを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関し国民への啓発を重点的に実施するための日として、11月11日を「介護の日」（「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」を念頭に、「いい日、いい日」にかけた、覚えやすく、親しみやすい語呂合わせとなっています。）と定めています。